

平成 22 年度
第 2 回 朝日地域審議会
会議録（概要）

期日：平成 22 年 9 月 16 日（木）

場所：鶴岡市朝日庁舎 すまいる

平成 22 年度 第 2 回 朝日地域審議会 会議録

○日 時：平成 22 年 9 月 16 日（木） 午後 7 時 00 分から午後 9 時 15 分まで

○会 場：鶴岡市朝日庁舎 すまいる 大集会室

○出席者：敬称略

（委員）佐藤正、齋藤健一、松本壽太、宮崎重美、伊藤文一、佐藤照子、宮崎康史、難波玉美、齋藤亮一、佐藤芳彌、清野義次、佐藤清、大滝清策、帯刀春男、井上時夫、今野めぐみ、難波庄一、菅原和則

（20 名中 18 名出席）

（市側【庁舎】）朝日庁舎支所長、各課課長・主幹、総務課・商工観光課・農林課職員

（市側【本所】）地域活性化推進室職員

1. 開 会

2. あいさつ 会長、支所長

3. 協 議

協議テーマについて 総務課長が説明

【質疑応答なし】

参加委員全員の了承を得て、分散して分科会を開催する

－ 別紙 各分科会会議録による －

4. 全 体 会

（1）分科会の報告

各分科会協議事項について、総務課職員より概略を報告

意見（松本壽太分科会座長）

今の世の中、とても大変な時代だとよく言われるが、これまでも大変でない時はなかったと思うし、常に明るく考えるようにしている。ここで挙げられている問題も大変な問題ではあるが、もっと若い人、馬鹿者というか、成功するまで継続するような熱意を持って取り組むことが重要だと思う。

意見（帯刀春男分科会座長）

課題やマイナス面を今回多く挙げた訳だが、悪い点だけでなく良い点を伸ばすことが悪い点を解決できる可能性を含んでいると思う。次回は悪い点だけでなく、良い点も挙げて検討すべきである。

意見（佐藤正）

農業の分科会について。分科会の報告で加工施設の話も出たようだが、自分で農産物を生産し、加工までするのは労働力も限られているので非常に厳しい。鶴岡市農協などにはあるようだが、農協の店舗の一部にパッケージセンターのようなものを設置し、専門の従業員を雇用して箱売りでなく小分けしても売れるようにして販路を拡大し、山間地農家の所得向上に繋げるような方法を考えていかないと難しいのでは。後継者問題についてだが、今行っている仕事で生活するために必要な所得をちゃんと得られるようになれば、自然と後継者は育つと思っている。

（2）その他

次回日程について

第 3 回については、10 月 19 日（火）とすることを確認する

5. 閉 会

平成 22 年度第 2 回朝日地域審議会
中山間地域生活環境（機能）の維持再生について
【コミュニティ分科会】 会議録

○会場：鶴岡市朝日庁舎 すまいる 視聴覚室

○出席者：敬称略

（委員）佐藤正、齋藤健一、宮崎康史、齋藤亮一、佐藤芳彌、佐藤清、大滝清策、帯刀春男、
今野めぐみ、難波庄一（12 名中 10 名出席）

（事務局）総務課長、市民福祉課長、税務市民主幹、建設環境課長、教育課長
総務課課長補佐、コミュニティ防災主査

分科会協議

（1）分科会座長の選任について

帯刀春男氏を分科会座長に選任

（2）地域を取り巻く現状と課題報告

総務課長及び総務課課長補佐が資料をもとに説明

（3）協議

意見（宮崎康史）

1. 鶴岡市消防団協力事業所表示制度について

消防団に協力しているという看板を表示するだけでは会社側には何のメリットもないのでは。会社側にもっと優遇措置はないものか。また、消防団員が出動する際の理解、協力を行政側でも会社側に行ったほうがよい。

2. 有蓋の防火水槽について

今から 20 年ほど前、有蓋式になり初期の頃の防火水槽が、空気穴（立ち上がり）がなく不備がある。もともと自然水利を利用していたが、降雪時圧雪するとマンホール等を除雪しないと空気が入らずポンプを繋いでも水が汲めない。現状を調査し、対応すべき。

意見（大滝清策）

自主防災について、火事になった時に集落に消防団員がおらず、また高齢化しているため、小型ポンプ積載車などの機材を集落にいる人たちでも使用してよいようにすべきである。

回答（課長補佐）

消防団 OB の方から消防活動協力員になってもらい、軽積載車や小型ポンプを操作する事ができる制度が平成 21 年度よりできた。今後募集していく予定である。

意見（大滝清策）

大鳥など消防団員が少ない地域では、協力員の人数を多く確保すべきである。

意見（帯刀春男）

女性をもっといろいろな事に関わったほうがよい。高齢者もそうかもしれないが女性は日中でも地域内にいると思う。

意見（齋藤健一）

防犯灯について、上名川の防犯灯は木柱に設置してあるが、古くなると危険でコンクリート柱に柱交換を自治会で行わなければならない状況であるため、行政でももっと協力してもらいたい。

回答（コミュニティ防災主査）

防犯灯などの器具の設置については市の予算にもよるが、要望を出していただければ対応する。ただ、今回のようにコンクリート柱への交換は行えないため、自治会単位で積み立てをして対応している所もある。また、コンクリート柱に立替を行うと費用的にも負担が大きいので、電力柱やNTT柱への防犯灯の移設を進めたほうがよいと思われる。そのような場合であれば、市でも要望をもらえば対応できる。

意見（佐藤正）

1. 自治会役員の確保について

今始まった問題ではないし、鱒淵では役員改選時は選挙を行い、よほどのことがないと断れないというやり方で決めている。他の集落がどうかは分からないし、自分から立候補して役員になる人も少ないと思うが、結局いる人の中からそれなりに選ぶしかないため、あまり問題とも考えていない。

2. 消防協力員の確保について

なりたいたいと思った人はだれでもなれるようなものでないと多くの人材を確保できない。年齢面や消防団OBという条件も緩和すべきでは。制度の周知と合わせて検討すべき。

3. 消防団の定員について

鱒淵は小さい集落のため消防団員は2名しかいないが、消防団員を多く出している集落は出役等の関係で負担が増加する仕組みになっている。大きい集落と小さい集落で不平等の無いよう、自治会の負担のあり方についても全体的に検討すべきである。

追加意見（帯刀春男）

消防の団員が減り、分団が再編されると消防操法大会への参加の順番も早く回ってくる。自治会ではそれなりに予定して積み立て等を行っているが、負担が大きくなっていることは確かである。

意見（大滝清策）

大鳥は高齢化も進み限界集落といわれているが、現在は大鳥自然の家、タキタロウ村、大鳥振興企業組合が大鳥を支えていると考えている。また、地域には農家経営をおこなっている住民が多いが、今後は米だけでなく山菜等の特産品をどう販売していくかが重要になってくる。農業に対する市の支援もしっかり行ってもらいたいと思うし、農家がよくならなければ地域もよくなれないと思う。

質問（斎藤亮一）

予備消防について。昔は女性が予備消防として消防器具の点検などを行っていたと思うが今はなくなってしまった。現状としてどうなっているか。

回答（宮崎康史）

予備消防は当初男性が出稼ぎで冬季間少なくなってしまう時期に女性に協力してもらうための制度だが、現在は出稼ぎで男性がいなくなるという状況でもないため、以前に廃止された。朝日地域では組織されていないが、婦人消防、女性消防の隊員組織がある地域もある。

意見（難波庄一）

資料の説明を受け、改めて過疎が進んでいる状況が分かり、なんとかしなければと思う。まず第一にこのような会議を行っていかねば駄目だと思う。また、悪いところだけでなく良いところも出したほうがよいと思う。

意見（斎藤亮一）

民生委員で5年ほど前に自分の集落の戸数がどのくらい減るか話したことがある。下本郷では5年前から5件ほどの戸数が減少し、山の道なごもできなくなり、山が荒廃している。農家でも後継者がいなくなってきたおり、問題である。

意見（佐藤清）

資料を見ても人口が減少しているのが分かるが、さまざまな対応を行っても社会の流れとして少子高齢化が進んでいるため、この状況は変わらないと思う。今現在住んでいる人がいかに楽しく生活できるかが重要だと思う。老人世帯、高齢者のコミュニケーションを充実させるなど、安心して暮らせる生活環境づくりが重要ではないか。

意見（今野めぐみ）

まちづくり塾でも朝日地域の問題点を検討したところ、課題点はほとんど今回と変わらない内容だった。朝日にいる人で地域を盛り上げるためにと検討した結果、六十里越街道マラソンという案が出たわけだが、そのほかにも休耕田に花を植えればそれを見に人が来るのでは、という案もあった。実際夏場は大鳥地域が賑わっており、自然の家に宿泊予約をしてもいっぱい泊まらなかったほどであるが、そのような情報をもっと発信すべきである。地域に住んでいる人のほうが意外と地域の事を知らないで、情報を発信し、人伝いに口コミで広がり、いろいろな催しにも多くの地域の人に参加するようになればよいと思う。

意見（佐藤芳彌）

テーマにもあるが朝日地域は中山間地域で、地域の維持、再生をどうするか、その基礎となるコミュニティということで実態調査を行ったようだが、今後ますます厳しい状況となることが考えられ、これからどうなっていくかという見方が重要である。また、地域や集落によっていろいろな違いがある。その違いをどう認め合いながらコミュニティを作っていくかが大きな今後の課題であるが、地域の問題を行政に要望するときに鶴岡市全体としての朝日庁舎の位置づけ、機能が今後どうなっていくかが朝日地域を再生、維持していくためのポイントだと思う。

高齢者の集合住宅のような対策もあるようだが、将来的にはそのような形も過疎化の対策として見据えてやっていく必要があると思う。また、大鳥には自然の家があり、タキタロウ村があり、大鳥振興企業組合があり、リーダーがいて、高齢化率も非常に高く厳しい環境の大鳥でもコミュニティを大事にしながらやっていけるというモデル事例であり、参考になると思う。

意見（佐藤清）

高速道路の無料化について。国道沿いの商店の来客数が激減しているようである。今後無料化がどうなるか分からないが、いかに朝日で高速を降りてもらい来客を増やすかが重要だと思う。行政、商工会、観光協会などが協力して行うべき。

（次回追加資料についての要望）

- ・今後の人口の減少を予測したもの
- ・平成 19 年に政策企画室が調査したものの中から、コミュニティ分科会に関係するような内容を抜粋したもの

5 閉会（総務課長）

次回の資料について、後日でもいいので総務課に連絡いただければ可能な限り準備したいと思う。

平成 22 年度第 2 回朝日地域審議会
農林業の六次産業化の推進について
【農業農村分科会】 会議録

○会場：すまいる 第 1 研修室

○出席者：

(委員) 松本壽太、佐藤照子、清野義次、井上時夫、菅原和則、伊藤文一、難波玉美、宮崎重美
(8 名中 8 名出席)

(事務局) 農林課：農林課長、商工観光課長

農林課 課長補佐、農業振興主査 商工観光課 商工観光主査

(1) 分科会座長の選任について

松本壽太氏を分科会座長に選任する

(2) 地域を取り巻く現状と課題報告

農林課長が資料をもとに説明

(1) 六次産業・六次産業化の定義

(2) 農林水産省の補助事業

(3) 山形県の取組み

(4) 鶴岡市朝日地域の取組み

(5) 今後の取組みについて

(3) 分科会ごとの協議

意見 (宮崎重美)

月山ワインまつりが先日開催され、庄内たがわ農協合併 15 周年ということで、場所を赤川河川敷に移して開催したが、市街の方には大変好評であり、ワインの売上もあった。月山ワインのイメージアップに繋がった。

農業の六次産業化について、農協でもワイン、山菜など今現在事業を行っているものもあるが、長く続けていくことが大事である。高齢化が進んでいるということもあるが、せっかく朝日で始めたブランドを他に取りられてしまうこともある。続けていくために、農協、行政が応援していく必要がある。

回答 (難波寛)

新たなものを求めることも大事だが、今までこだわって続けてきたワイン等も大事にしていきたい。

意見 (菅原和則)

高齢化、過疎化により農業に携わる人が減少している。手をつけられない農地などは、農業だけでなく観光にもマイナスとなっている。農業従事者の推移のデータはないか。

回答 (農業振興主査)

農業従事者が減少しているのは事実であるが、今存在する部会は育てていく必要がある。次回、データは示したい。

意見 (佐藤照子)

産直グーの現状であるが、平成 16 年に開業した当時は、熊出に加工所があり、孟宗の缶詰など加工品も並んでいたが、現在廃業している。このため、野菜がなくなる冬は、販売する商品が少なくなり、課題となっている。藤島には加工所がある。今年、きのこの補助があることは、ありがたい。

意見（伊藤文一）

林業についてだが、杉の価格がすぐに上昇することはないだろう。林産物、きのこの栽培などは行っている。ただ、栽培が軌道に乗るためには、山ぶどうは5年程度、山菜は5～8年程度の年月が必要であり、生産者が高齢の場合、増やす意欲がわからないのが現状である。せっかく育てたものも、後継者がいないとムダになってしまう。自分自身ぜんまいの栽培を行っているが、まだ試行錯誤しながら行っている状態である。

意見（井上時夫）

ワインの山ぶどうは生産調整が行われているようだが、現状はどうなっているか。ワインだけでなく焼酎などに加工はできないか。アルコール度数が高いと、販売価格も高く設定できるようだ。いろいろな販売の仕方を考える必要がある。

意見（宮崎重美）

山ぶどうの在庫は適正数に近づいている。山ぶどうはワインの他、原液、ジュース、リキュールも作られている。山ぶどうは原価が高くなるため、料理酒としての販売は現実的でない。

意見（佐藤照子）

生の山ぶどうを店頭に並べると、買って行く人がいる。自分で搾ってみたいという人がいるようだ。

意見（清野義次）

農村公園の管理状況について聞きたい。高齢者にグラウンドゴルフが人気となっている。

回答（難波寛）

地元管理となっており、利用については地元と相談しながら考えていきたい。

意見（伊藤文一）

産直グーについて、高速無料化の影響などもあり、生き残りが図れるか問われている。商品のインターネットでの通信販売を行う考えはないか。

意見（佐藤照子）

産直施設としても、インターネットでの通信販売は検討を行っている。業者からの見積もりによると、システムの運営費用が月額5万円程度かかるようである。利益が確保できるか、また、注文が入った場合に対応が可能かの不安がある。生ものの通信販売は難しい面があり、生ぶどう原液、缶詰など加工品の商品が揃ってから始める必要がある。

意見（菅原和則）

農林業の六次産業化とあるが、観光との関りはどのようになるか。六次産業化では、生産、販売、観光アピールなど全体でかかわる必要があるが、求めるものを明確にする必要がある。新しい産業があり、若者が残る、いろいろな部門のつながりが大切となるのではないか。

意見（佐藤照子）

加工施設調査を行うようだが、加工所を作った場合、働く人はいるのか。

回答（難波寛）

雇用の創出を柱としながら、関連産業が育っていくのが理想である。そのためには、持続性が必要である、全体的な連携が大切となる。

回答（阿部重則）

観光は総合産業であり、その中には、その地特有の食も必要となる。観光では、違う部門間のコーディネートを行いながら、全体的なバランスを取ることが大切となり、その中で農林業の六次産業化に関わりを持つことになる。